

移乗機器SIG講習会

介護老人保健施設 シェーンハイムやはば 鈴木 栄子

1. はじめに

2013年8月25日、私の地元である岩手県盛岡市、岩手県自治会館にて「移乗機器SIG講習会 2013 in 岩手」が開催され、初めて参加させて頂いた。

2. 講習会の流れ

今回この講習会に参加したのは、作業療法士が5名、福祉用具貸与販売関係職が4名、リハビリテーション工学技士1名の計10名と、講師陣が3名であった。

まず最初に、今回の講習会では、腰痛予防を前提とした移乗用具のうちのスライディングボードとスライディングシートに限定して、講義・実技実習をするとの説明があった。講習会のプログラムとしては、初めに、生活支援・腰痛予防を前提とした移乗用具導入の考え方と、スライディングボードの原理原則、使い方のデモンストレーションについて、移乗機器SIG会長であり、神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授の古田恒輔先生が講義された。また、スライディングシートの原理原則、使い方のデモンストレーションは、別府リハビリテーションセンターの山形茂生先生が講義して下さった。

それぞれの講義終了後、参加者10名は、各5名の2グループに分かれ、古田先生と山形先生も各グループを担当指導して下さり、沖縄リハビリテーション福祉学院の金城知子先生も、2つのグループ全体を指導して下さった。グループ毎にスライディングボードとスライディングシートを使用して、介助者・対象者の両方の立場を実技実習し、「持ち上げない移乗」という腰痛予防の視点で、使用方法やコツを時間を

かけ具体的・個別的に指導が受けられた。

私は残念ながら、これまでスライディングボードとスライディングシートをあまり活用した機会がなかった上、これまでの移乗方法は「持ち上げる移乗」で余分な力を使う移乗支援が習慣になっていたらしく、特にスライディングボードを使用しての介助では、使用方法の原理原則を理解しコツを掴んで習得するまでにかかなり苦戦したが、あれほどまで個別指導して下さいましたこの講習会にはとても感謝している。

数年前に職場でもスライディングボードを備品購入し、移乗介助時の使用を勧めたが、ケア現場から「うまく使えない」「使うのにさらに時間がかかるから使わない」と使用を怪訝されたことがあった。マンパワー不足で腰痛を抱え、時間に追われ一日に幾度となく移乗介助しているケア現場としての本音であろうが、数あるスライディングボードの中の適切な備品選択であったのか、腰痛予防を前提にケア現場への適切な提案指導であったかと、今回の講習会に参加して移乗用具に対し未習熟であった自分を反省し、今後さらに技術習得に努めたいと強く感じた。

3. おわりに

講習会で体験したことをすぐに伝達しようとスライディングシートを購入し、翌日リハ職に伝達したが同僚も知らない情報があった。ケア現場の看護・介護職に尋ねると「スライディングボードとスライディングシートを知らない、触ったことがない、使い方も知らない」という声もあった。まずはリハ職が対象者の全体像を評価した上で移乗用具の使用法を習熟・提案する重要性を痛感したとともに、講習会で学んだことを移乗支援に携わる看護・介護職をはじめ介助者の腰痛予防も含めて伝達していきたい。

介護老人保健施設 シェーンハイムやはば
〒028-3606 岩手県紫波郡矢巾町土橋 11-35-1